

資 料 提 供
令和 6 年 8 月 1 日

課 名 水産課
担当者 横内
電 話 082-513-3610 (直通)
内 線 3609

赤潮注意報第3号 県西部海域でカレニア・ミキモトイ赤潮

県西部海域で、有害赤潮プランクトンのカレニア・ミキモトイが注意報発令基準を超える密度で確認されましたので、赤潮注意報を発令します。

なお、この赤潮による漁業被害は現在報告されていません。

1 発令日

令和6年8月1日 (木)

2 発令海域

県西部海域 (呉市以西)

3 出現している有害種および最高密度

カレニア・ミキモトイ

最高密度： 2,458 細胞/ml 調査定点：奈佐美 (江田島市大奈佐美島)

カレニア・ミキモトイ

注意報 基準密度…合計 500 細胞/ml 以上

発生範囲………魚類養殖漁場から 20km 以内の地区

警 報 基準密度…合計 5,000 細胞/ml 以上

発生範囲………魚類養殖漁場から 10km 以内の地区

4 調査機関

県立総合技術研究所 水産海洋技術センター (呉市音戸町)

5 対応

プランクトン調査結果を関係市・漁協に伝達した。

また、漁業者には次のことを注意するよう呼びかけている。

- (1) 魚や漁場環境の調査監視を強化し、情報連絡を迅速にかつ密にすること。
- (2) 養殖魚については、餌止めをするか、質のよい餌を少量給餌するようにし、ストレスを与えないように注意すること。
- (3) 県は定期的に養殖漁場周辺のプランクトン調査を実施する。
- (4) 解除等の際は情報提供します。

6 本年の注意報・警報発令状況

発令月日	区分	対象プランクトン	対象海域	備考
6月25日	注意報第1号	シャット初属	県東部海域	7月25日に警報第1号に切替
7月25日	警報第1号	シャット初属	県東部海域	
	注意報第2号	カレニア・ミキモトイ		
8月1日	注意報第3号	カレニア・ミキモトイ	県西部海域	

※広島県のホームページ「赤潮情報」

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/88/1170324265768.html>

プランクトン調査結果

調査日 : 8月1日

調査機関 : 県立総合技術研究所 水産海洋技術センター



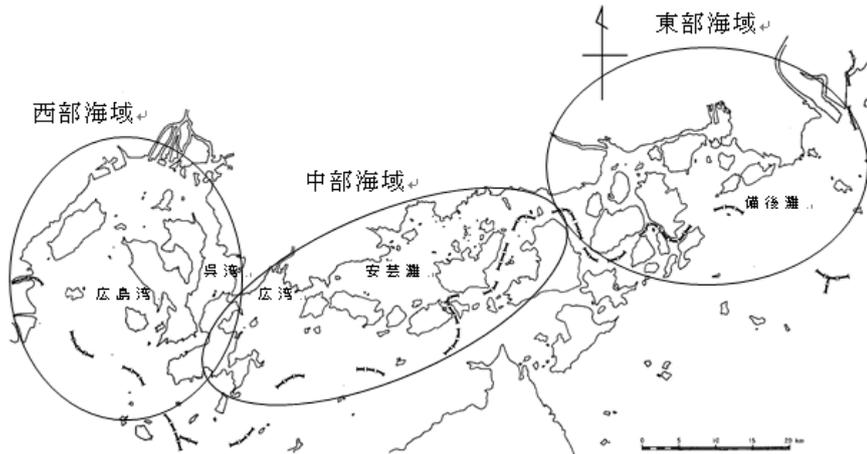
カレニア・ミキモトイ (細胞/ml)

水深	小方	大野浦	阿多田港	奈佐美	カクマ	江田島湾
0m	0	0	0	0	0	1
5m	4	140	0	2458	2317	0
12m	-	0	5	-	-	3
B-1m	0	0	1	1	9	0

水深	津久根	観音	宇品	峠島	呉湾
0m	0	24	0	0	0
5m	80	633	134	791	0
12m	-	-	-	-	-
B-1m	0	2	0	0	0

参 考 資 料

1 海域概要



2 赤潮の種類

(1) シャットネラ赤潮について

海産ラフィド藻の一種であり、赤潮の原因藻類の一つである。大きさは数十ミクロン程度で、海水温 20～30℃になる夏場に増殖し赤潮となり、数百細胞/ml を超えるレベル（警報レベル）になると、魚類のへい死を引き起こす危険性がある。（右の図1はシャットネラ・アンティーカの顕微鏡写真）



図 1

(2) カレニア・ミキモトイ赤潮について

西日本を中心に広く分布する渦鞭毛藻類で、長崎県の大村湾で確認された、赤潮の代表的な原因藻類である。

大きさは数十ミクロン程度で、回転しながらひらひら泳ぐ。夏場に増殖し、赤潮となり、数千細胞/ml を超えると魚類のへい死を引き起こす危険性がある。過去に、瀬戸内海でも大きな漁業被害を引き起こした。（右の図2はその電子顕微鏡写真）



図 2

3 昨年度（令和5年度）の赤潮注意報・警報の発令状況

発令月日	区分	対象プランクトン	対象海域	備考
6月29日	注意報第1号	シャットネラ属	県東部海域	7月12日に警報第1号に切替
7月12日	警報第1号			
8月2日	注意報第2号	シャットネラ属	県西部海域	
8月3日	注意報第3号	コクロテニウム・ポリクリコイテス カレニア・ミキモトイ	県東部海域	8月7日にカレニア・ミキモトイを追加
8月24日	警報第2号	カレニア・ミキモトイ	県西部海域	
9月15日	注意報第4号	コクロテニウム・ポリクリコイテス	県西部海域	

	号			
--	---	--	--	--

補足：県東部海域（警報第1号、注意報第3号）は9月6日、県西部海域（注意報第2号、警報第2号、注意報第4号）は10月3日に解除